
文化庁主催

文化観光推進事業オンライン説明会



地域と文化の未来をつくる文化観光

11.5 (火) 13:00 - 15:30

参加無料
オンライン開催

「地域と文化の未来をつくる文化観光」

基調講演：「地域との未来をつくる文化観光」

地域文化を未来に受け継ぐ 文化観光の挑戦

文化庁 博物館支援調査官 中尾 智行

文化観光推進法

文化観光拠点施設を中核とした
地域における文化観光の推進に
関する法律

2020年5月施行

観光を通じて文化への理解を深め、
文化を起点とした好循環を形成する

2022年4月 改正博物館法の成立

博物館法第3条（博物館の事業）

3 博物館は、第一項各号に掲げる事業の成果を活用するとともに、地方公共団体、学校、社会教育施設その他の関係機関及び民間団体と相互に連携を図りながら協力し、当該博物館が所在する地域における教育、学術及び文化の振興、文化観光（略）その他の活動の推進を図り、もって地域の活力の向上に寄与するよう努めるものとする。

公布通知における留意事項

7. 第3条第3項において「地域における教育、学術及び文化の振興、文化観光その他の活動の推進を図り、もって地域の活力の向上に寄与するよう努めるものとする」と規定するうちの
- ① 「その他の活動」には、まちづくり、福祉分野における取組、地元の産業の振興、国際交流等の多様な活動を含み、
 - ② 「地域の活力の向上」には、地域のまちづくりや産業の活性化に加え、コミュニティの衰退や孤立化等の社会包摂に係る課題、人口減少・過疎化・高齢化、環境問題等の地域が抱える様々な課題を解決することを含むこと。

活用圧力によって
文化財の保存が脅
かされるのでは？

文化施設は収益
をあげるところで
はない

観光的な楽しさだ
けでは、学びや教
育が疎かになる

観光に取り組むことは「あるべき姿」を歪めてしまう！

文化財担当者や学芸員の違和感や不安感のごもつとも
ただ、今のまま100年後、1000年後の未来へ
文化を継承していくことはできるのでしょうか



美しい棚田の景色を伝えていくには？





地域の歴史と文化を伝える街並みを遺すには？



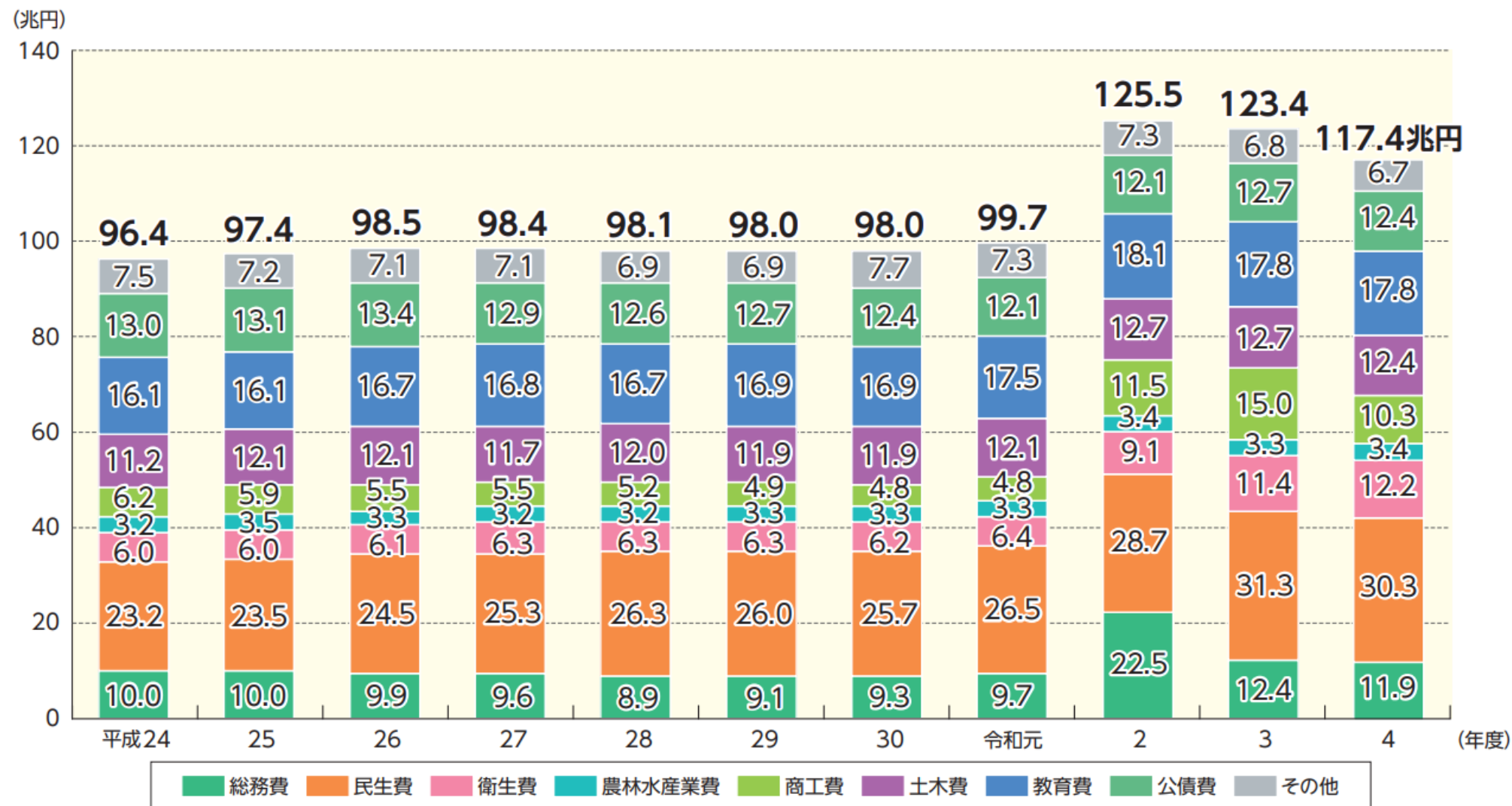


伝統的な産業を継承するには？

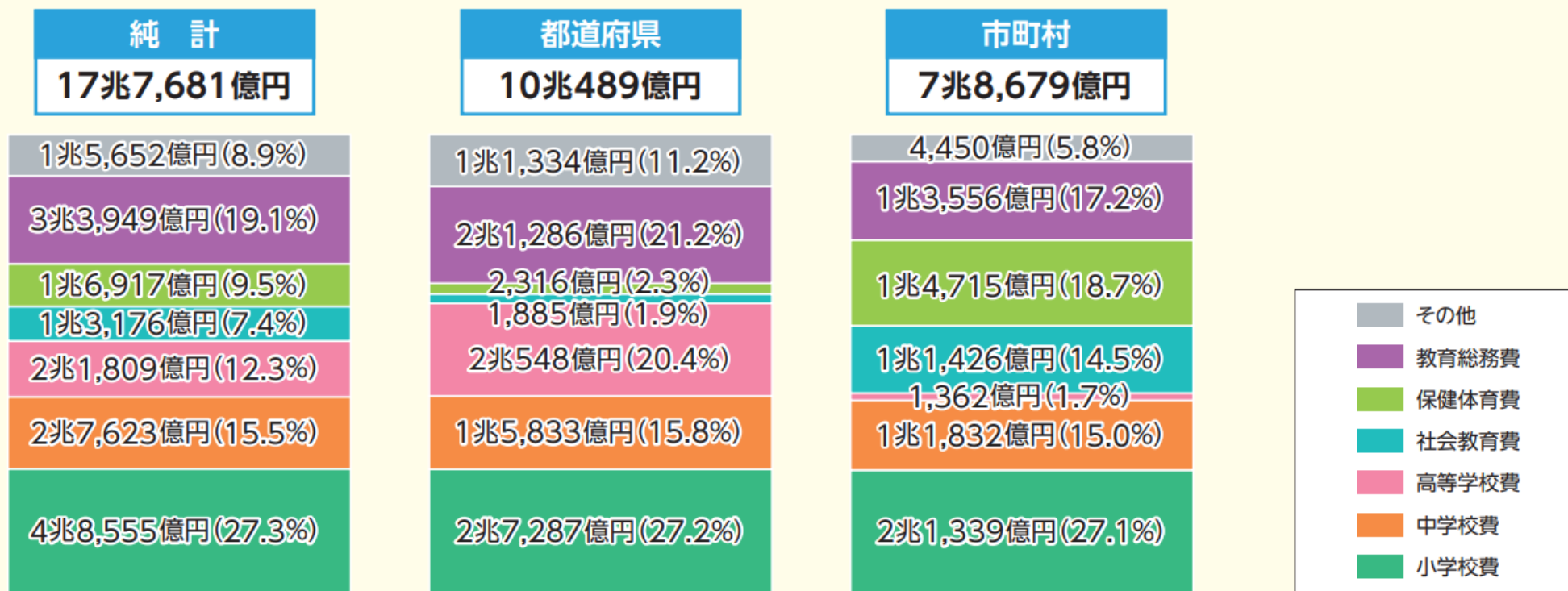


「公」で守るべきでは？

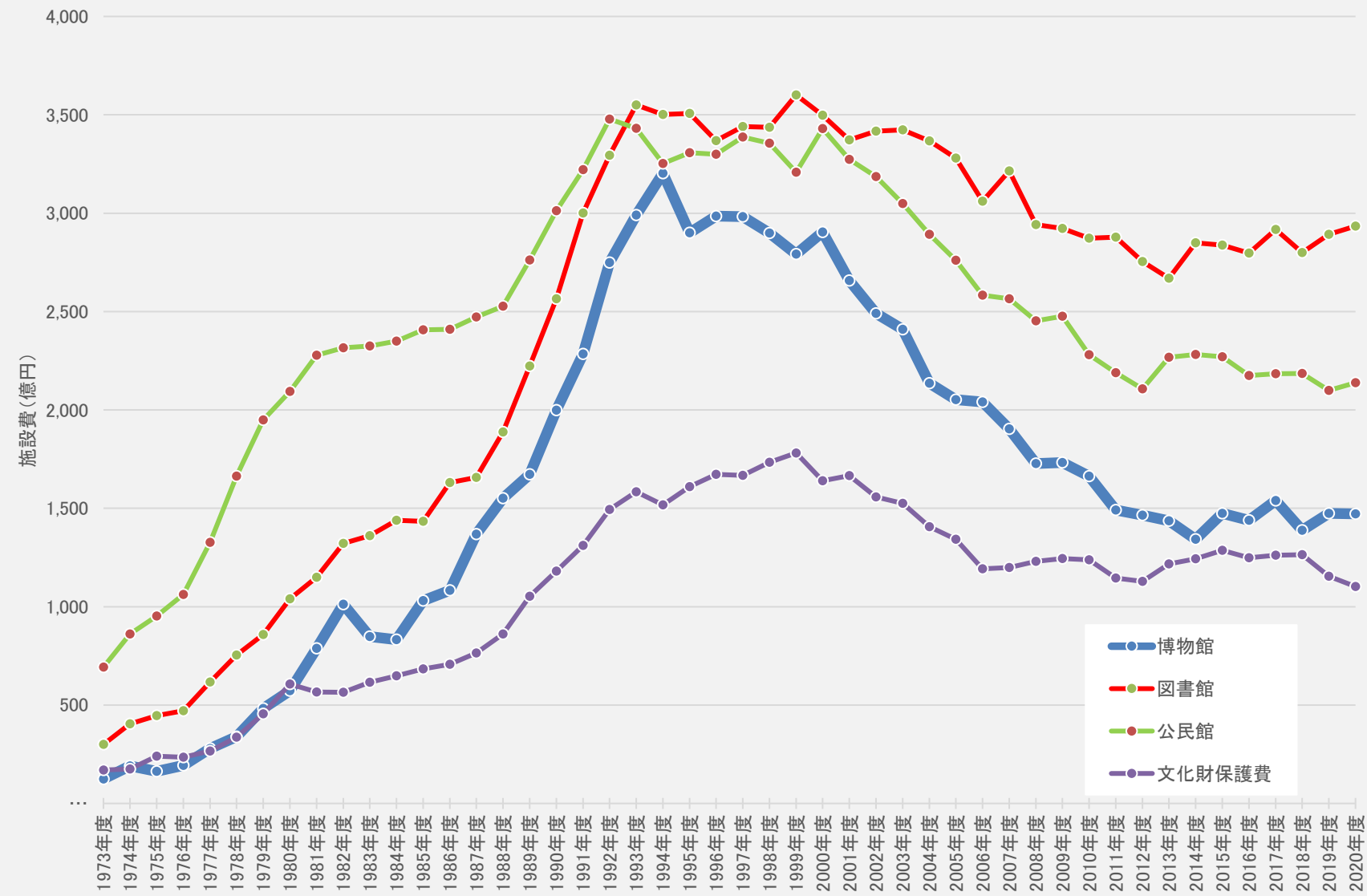
目的別歳出決算額の推移



教育費の目的別内訳



施設等別社会教育費推移（地方教育費調査）



博物館の大半で施設や体制に課題を抱えている。

活動の中心を担う学芸員を配置していない博物館も多い。



日本の博物館の典型的な姿

(参考資料：令和元年度 日本の博物館総合調査研究報告書
日本博物館協会)

開館からの年数	30年
敷地総面積	4,075m ²
建物延べ床面積	1,337m ²
常勤職員数	3人
非常勤職員数	1人
学芸員資格保有者常勤職員数	1人
資料(人文系資料)	2,778点
資料(自然系資料)	500件
開館日数	300～324日
入館者数	5,000人未満 (平均値は7万人強)



合掌村
合掌村
合掌村
合掌村

緩やかに衰退していく地域文化

その価値と魅力を多様な視点から発信し
新しいエコシステムを構築することで
未来に紡いでいくための挑戦

文化観光推進の 4つの目標

「文化観光の推進に関する基本方針」より

文化観光の推進に関する基本方針

「文化観光の推進の目標」

1 好循環の 創出

文化の振興を起点として、観光の振興、地域の活性化につなげ、その経済効果が文化の振興に再投資される好循環が創出されること

2 連携体制 の構築

文化観光拠点施設と文化観光を推進する事業を実施する者（文化観光推進事業者）、地方公共団体との連携体制が構築されること



地域住民による持続的な文化観光



地域住民との連携・参画は「推進の意義」に挙げられている。

また、地域住民が文化財などの**文化資源の価値を再認識**するとともに、文化観光拠点施設の機能強化や地域における文化観光の推進に関する各事業に**積極的に参画**することにより、地域への愛着心が高まり、地域住民自らの情報発信など、地域の活性化にもつながる。

CONSEIL INTERNATIONAL
DES MONUMENTS ET DES SITES **ICOMOS** INTERNATIONAL COUNCIL
ON MONUMENTS AND SITES

INTERNATIONAL CULTURAL TOURISM CHARTER
Managing Tourism at Places of Heritage Significance
(1999)

Adopted by ICOMOS at the 12th General Assembly in Mexico, October 1999.

INTRODUCTION

The Charter Ethos

At the broadest level, the natural and cultural heritage belongs to all people. We each have a right and responsibility to understand, appreciate and conserve its universal values.

Heritage is a broad concept and includes the natural as well as the cultural environment. It encompasses landscapes, historic places, sites and built environments, as well as biodiversity, collections, past and continuing cultural practices, knowledge and living experiences. It records and expresses the long processes of historic development, forming the essence of diverse national, regional, indigenous and local identities and is an integral part of modern life. It is a dynamic reference point and positive instrument for growth and change. The particular heritage and collective memory of each locality or community is irreplaceable and an important foundation for development, both now and into the future.

文化観光推進における**地域住民（ホスト・コミュニティ）**との連携・参画の重要性については、ICOMOSが1999年に出した「**国際文化観光憲章**」においても強調されている。

文化観光の**持続的な発展のためにはホスト・コミュニティの関与が不可欠**
そのためには、**ホスト・コミュニティの遺産への理解**を促し、観光と保存活動を通した**メリットの創出が必要**

文化観光の推進に関する基本方針

「文化観光の推進の目標」

3 文化理解

文化観光拠点施設等における魅力ある解説・紹介等の取組を通じて、**多くの来訪者の文化への理解が深まり、満足度が高まること**

4 来訪者の増加

文化観光拠点施設及び地域への**国内外からの来訪者が増加**すること。特に、国外からの来訪者が今後10年間で現在の2倍程度まで増加すること。

文化観光の推進に関する基本方針

「文化観光の推進の意義」

文化資源の保存・修復などを適切に進めていくことを大前提として、多くの人々に文化資源の魅力を伝えることは、文化の**保存・継承の意義の理解**につながり、**新たな文化の創造・発展**につながるものである。

文化の振興を起点として、経済の牽引や**国際相互理解**の増進につながる観光の振興を図り、さらには、人の往来や購買・宿泊等の消費活動の拡大などを通じた**地域の活性化**を実現することで、**新しい文化の創造も含めた文化の振興に再投資される好循環**が創出される。

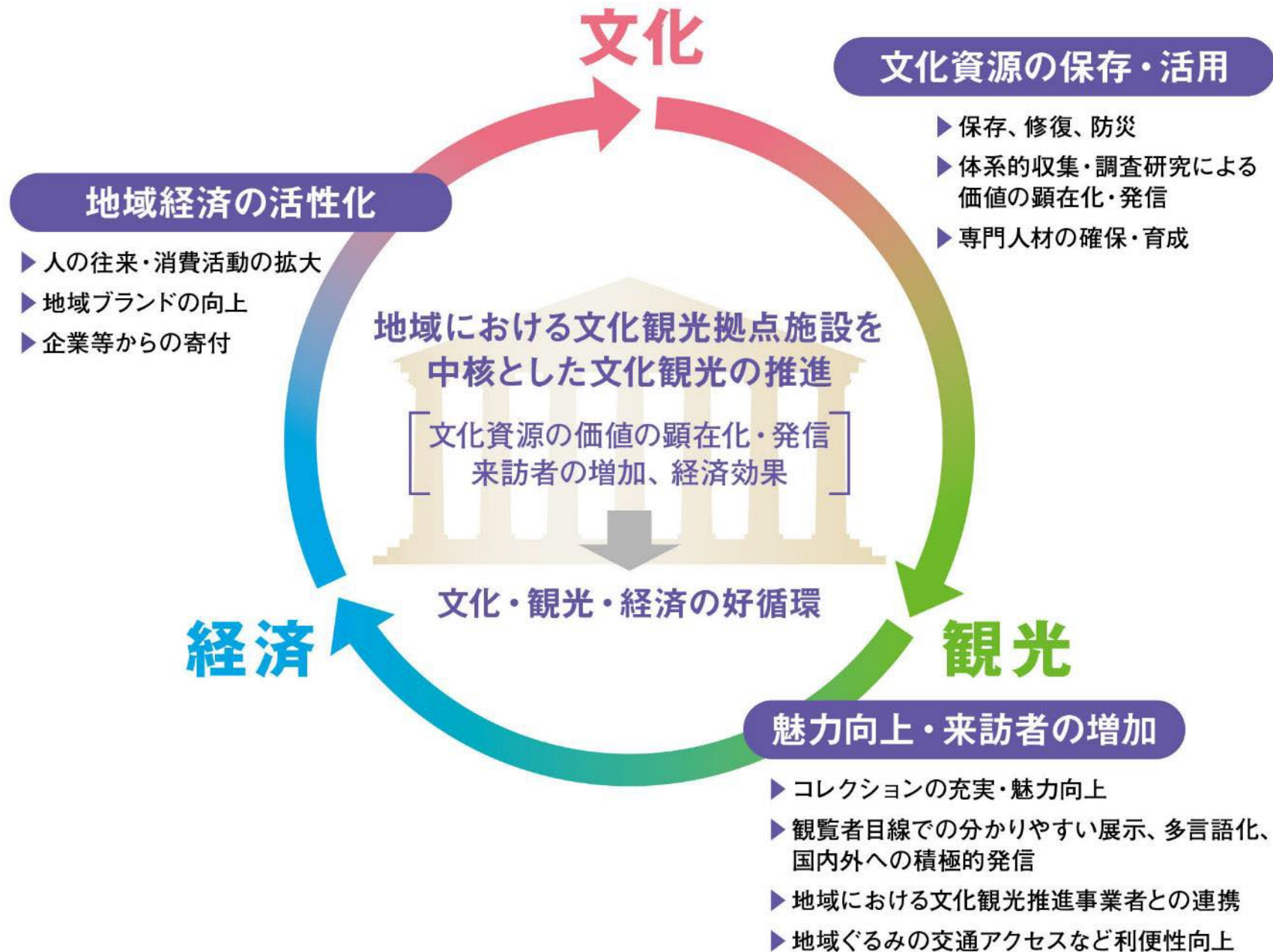
文化資源とは

有形の文化的所産としての建造物、絵画、彫刻、工芸品等、無形の文化的所産としての演劇、音楽、工芸技術等のほか、風俗慣習・民俗芸能・民俗技術等や遺跡・名勝地・資料として整理された動植物等が幅広く含まれる。

文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律 運用指針
[92795701_01.pdf \(bunka.go.jp\)](#)

!

「財（たからもの）」として保存・継承されてきた文化を
社会や地域の維持向上に貢献しうる「資源」として活用していく

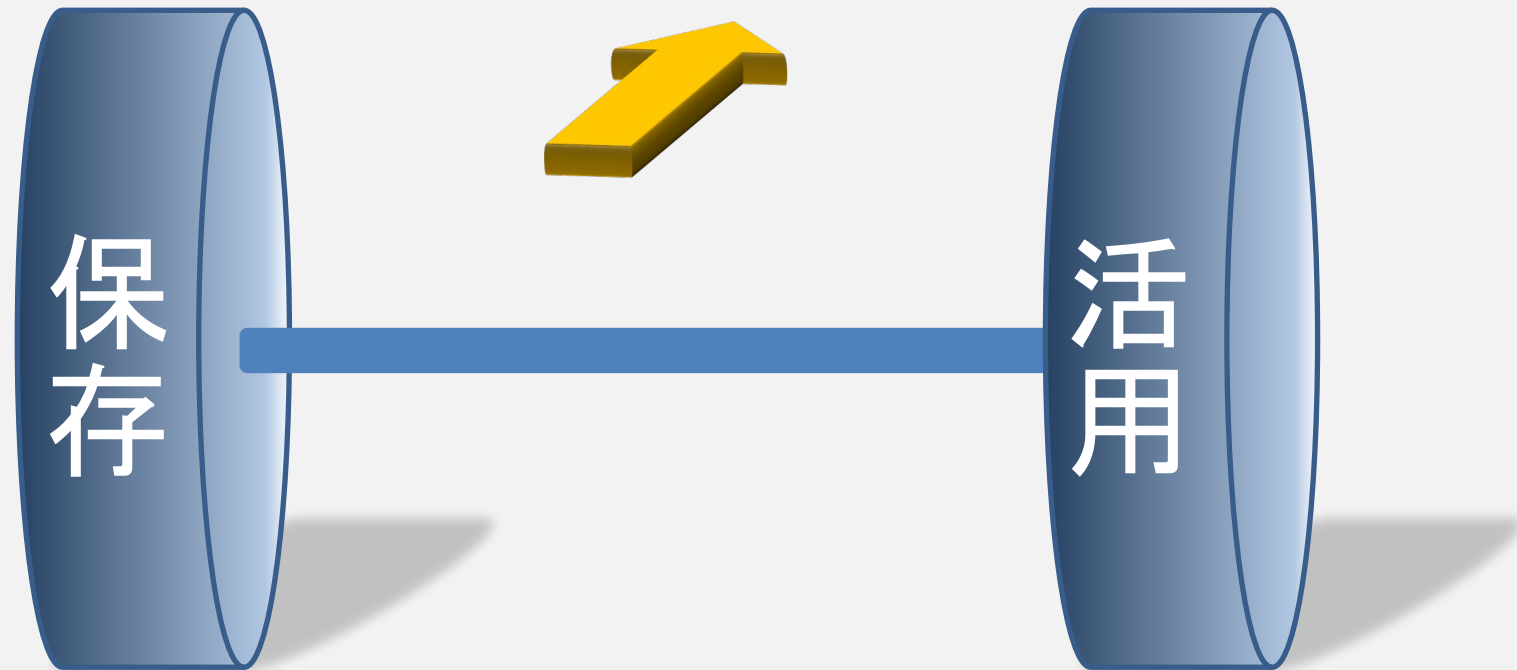


**それでも、活用への偏重は
とても心配！**

**という文化関係者は多い
考え方を少し変えてみましょう**

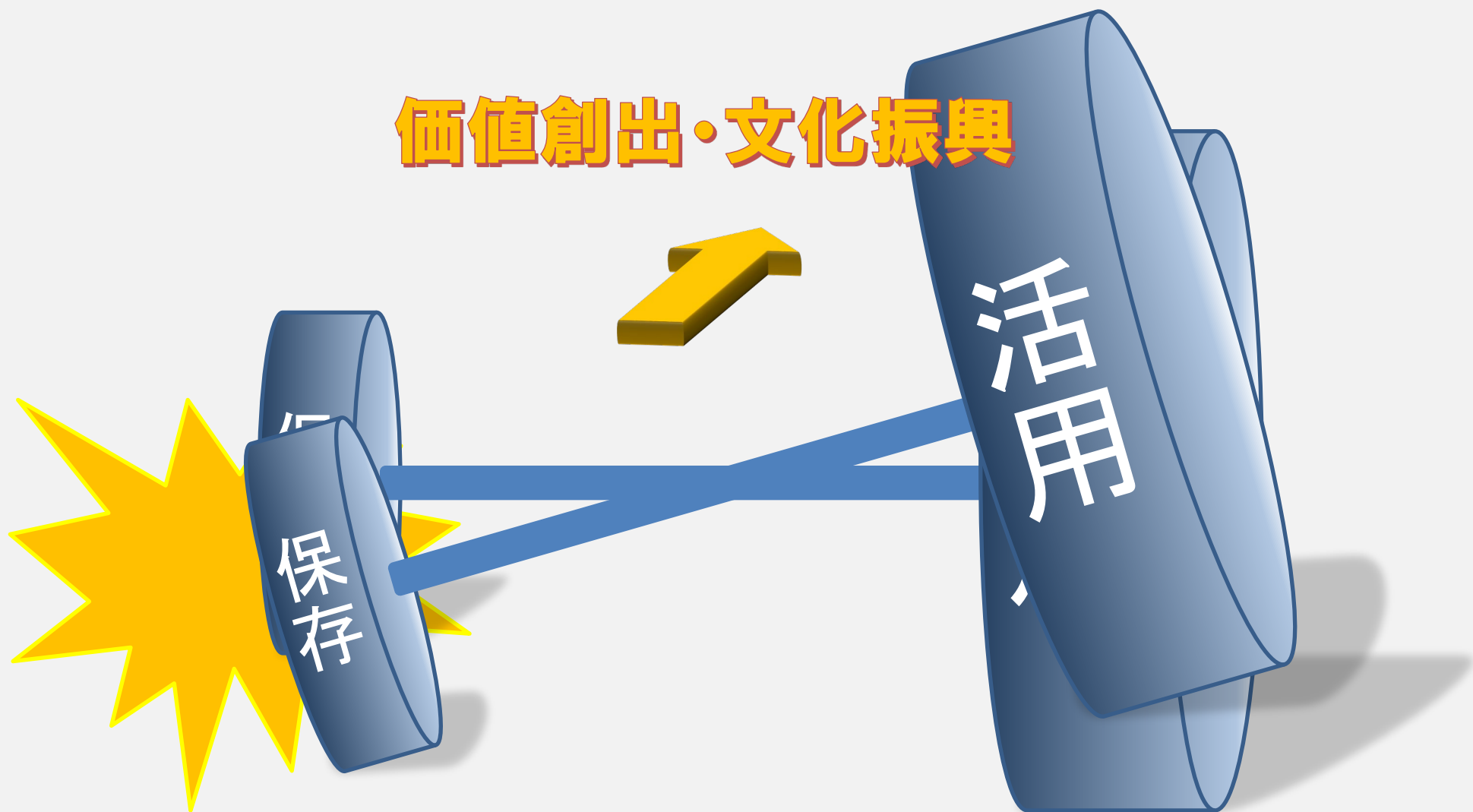
保存と活用は車の両輪

価値創出・文化振興



保存と活用は車の両輪

価値創出・文化振興



両輪ではなく...



文化財
保護法

第一条 この法律は、文化財を**保存**し、且つ、その**活用**を図り、もつて国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする。

「保存と活用の循環」の中で 価値を創り出す視点

Valorization

Material-based approach
→ **Value-based** approach
(※Living Heritage／History)

ヘリテージマネジメントの新しい潮流

※ 'Living Heritage' is being linked to 'communities' and the 'continuity' of traditions and practices.

Gamini Wijesuriya Course Coordinator (PCA15) Project Manager (Sites Unit) ICCROM

本質的価値とは

ある古墳群で示される
「本質的価値」

- 4世紀後半から6世紀前にかけて形成された古墳群で広域に存在する
- 当時の政治的・社会的構造を如実に示されている
- 当時の中央政権の状況を知ることのできる極めて重要な古墳群である

【文化芸術基本計画第1期】

(本質的価値)

- ・ 文化芸術は、豊かな人間性を涵養し、創造力と感性を育む等、人間が人間らしく生きるための糧となるものであること。
- ・ 文化芸術は、国際化が進展する中であって、自己認識の基点となり、個人の文化的な伝統を尊重する心を育てるものであること。

【文化芸術基本計画第2期】

- ・ 文化芸術は、人々に安らぎと勇気、明日への希望を与えるものとして、その本質的価値が改めて世界中で認識された。

専門家の研究や学術的知見に基づいて定義される情報や属性ではない。それを受け取る人や社会との関係性のなかで構築されるものであり、個々でみれば主観的で相対的なもの

史跡や埋蔵文化財の活用計画等で多様な価値を取り込むことで「みんなのもの」にしていく

文化資源の保護とは、その**価値を継承**していくこと
(棄損すれば価値が損なわれる)

* * * * *

「財産(たからもの)」としての**認識**＝価値を感じるかどうか

価値

基準をもって定まった価値(客観的・絶対的)

+

利用者や情報の受け手が感じる価値(主観的・相対的)

文化資源を未来へと継承するためには、
多くの人が多様な価値を見出し、共有・共創することが必要
そのための**重要な取り組みのひとつが文化観光**

保存と活用の好循環の拠点 「文化観光拠点施設」

文化観光拠点施設を中核とした
地域における文化観光の推進に関する法律

文化観光拠点施設：以下を満たし、地域における文化観光の推進の拠点となるもの

- ① 文化資源の保存及び活用を行う施設（文化資源保存活用施設※¹）のうち、
- ② 観光旅客が文化についての理解を深めることに資するよう解説・紹介をするとともに、
- ③ 文化観光の推進に関する事業を行う者（文化観光推進事業者※²）と連携するもの

※1 博物館、美術館、社寺、城郭等

※2 観光地域づくり法人（DMO）、観光協会、旅行会社等

文化観光拠点施設

文化資源保存活用施設

- 文化資源の保存及び活用を行う施設

※博物館、美術館、社寺、城郭等

- 観光旅客が文化についての理解を深めることに資するような解説・紹介を行う

連携

文化観光推進事業者

- 文化観光の推進に関する事業を行う者

※観光地域づくり法人（DMO）、観光協会、旅行会社等

文化観光拠点施設：以下を満たし、地域における文化観光の推進の拠点となるもの

- ① 文化資源の保存及び活用を行う施設（文化資源保存活用施設※¹）のうち、
- ② 観光旅客が文化についての理解を深めることに資するよう解説・紹介をするとともに、
- ③ 文化観光の推進に関する事業を行う者（文化観光推進事業者※²）と連携するもの

※1 博物館、美術館、社寺、城郭等

※2 観光地域づくり法人（DMO）、観光協会、旅行会社等

文化観光拠点施設

文化資源保存活用施設

- 文化資源の保存及び活用を行う施設

※博物館、美術館、社寺、城郭等

- 観光旅客が文化についての理解を深めることに資するような解説・紹介を行う

連携

文化観光推進事業者

- 文化観光の推進に関する事業を行う者

※観光地域づくり法人（DMO）、観光協会、旅行会社等

モノが語るストーリーを 伝えられているか

火熨斗（ひのし）
出土地：奈良県橿原市 新沢千塚126号墳出土
古墳時代・5世紀
青銅製
重要文化財



出典：ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)

火熨斗は内部に炭などを入れて使用する古代のアイロン。

古墳時代は日常的に使われておらず非常に珍しい遺物。

冠や指輪、ガラス玉など豪華な海外製の装飾品を身に着けた被葬者は、大陸とのネットワークを持った権力者。

1600年前の人でも服のしわを気にしていたんですか！

折り目正しい服を美しいと思う美意識が、そんな昔からあったんですね。

（被葬者は）外国のアクセサリを身に着け、アイロンをかけた服を着たおしゃれな人。



「モノとコトをつなぐ」



文化についての理解を深める
「価値」を伝える

文化観光で求められる展示・解説対応

価値と魅力の共有 ≠ 知識教授・学習
地域に広げる・繋げる ↔ 館内で完結する体験

コンセプトとビジョンの掘り下げ(展示の狙い)
辞書的な情報羅列ではなくストーリー

→「教示」ではなく「共有・共感」を呼ぶ
→博物館の役割を地域に広げて考える

文化観光拠点施設：以下を満たし、地域における文化観光の推進の拠点となるもの

- ① 文化資源の保存及び活用を行う施設（文化資源保存活用施設※¹）のうち、
- ② 観光旅客が文化についての理解を深めることに資するよう解説・紹介をするとともに、
- ③ 文化観光の推進に関する事業を行う者（文化観光推進事業者※²）と連携するもの

※1 博物館、美術館、社寺、城郭等

※2 観光地域づくり法人（DMO）、観光協会、旅行会社等

文化観光拠点施設

文化資源保存活用施設

- 文化資源の保存及び活用を行う施設

※博物館、美術館、社寺、城郭等

- 観光旅客が文化についての理解を深めることに資するような解説・紹介を行う

連携

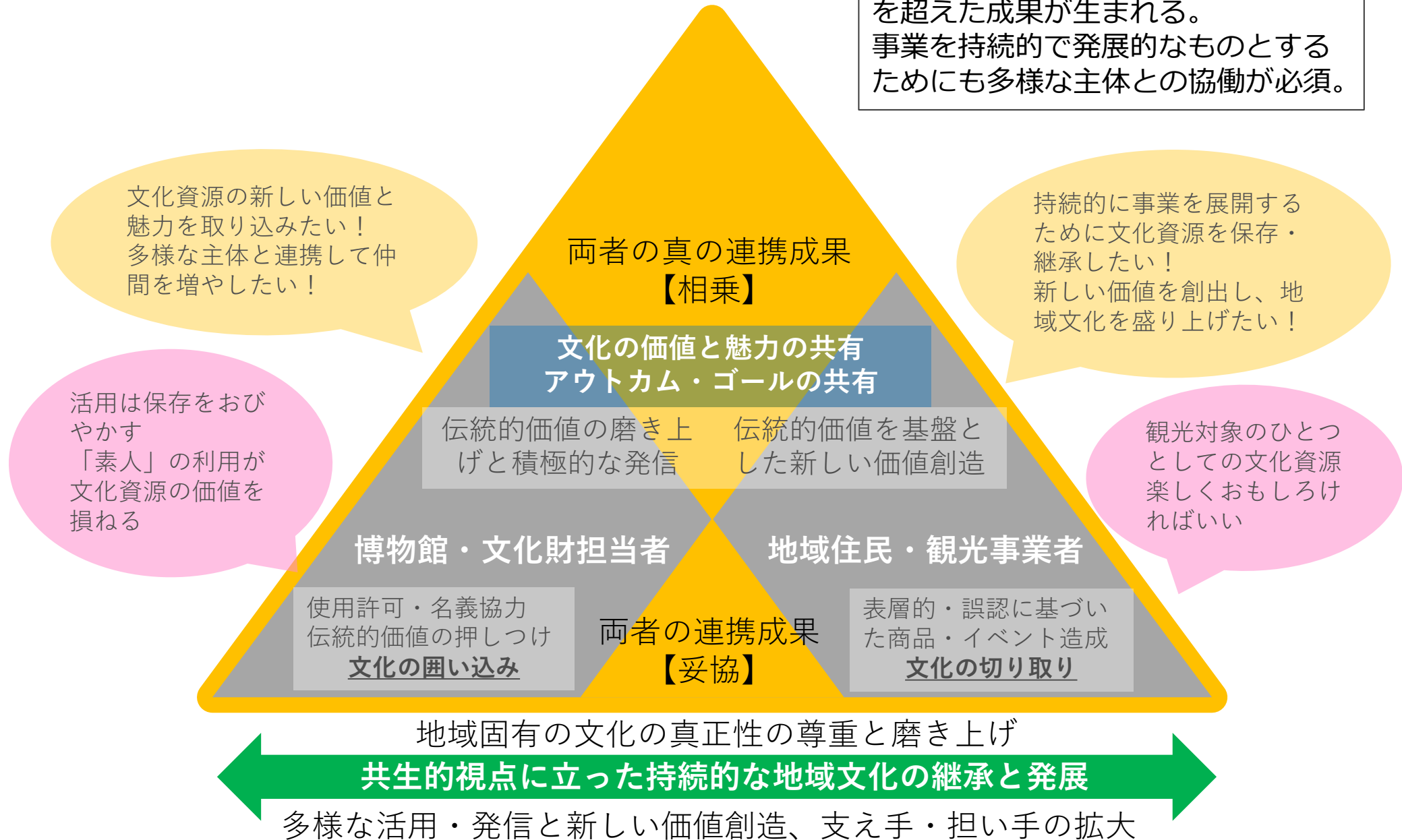
文化観光推進事業者

- 文化観光の推進に関する事業を行う者

※観光地域づくり法人（DMO）、観光協会、旅行会社等

真の連携とは：価値共有による共創

相互理解と信頼、尊重のもとに、事業価値を共創するなかで互いの想像を超えた成果が生まれる。
事業を持続的で発展的なものとするためにも多様な主体との協働が必須。

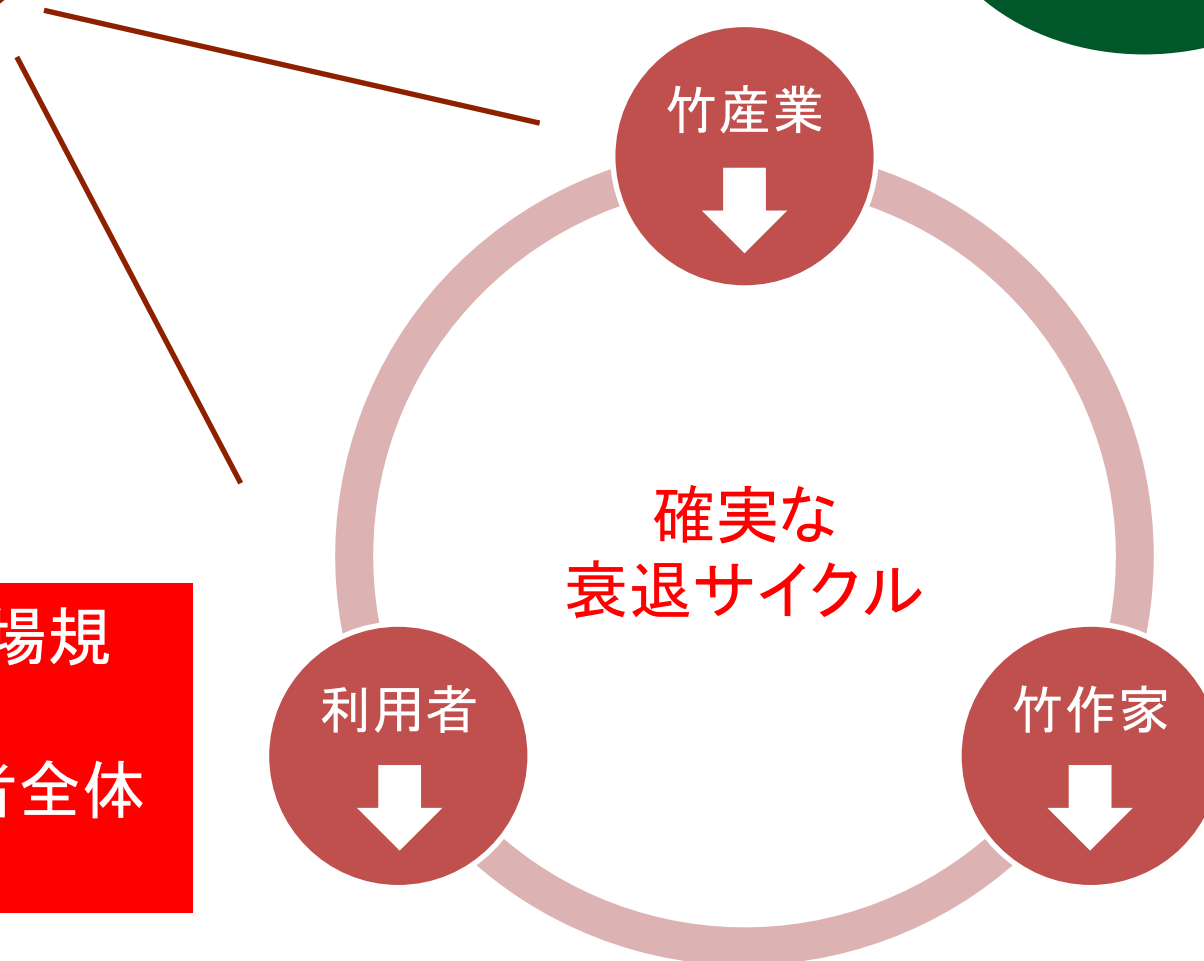
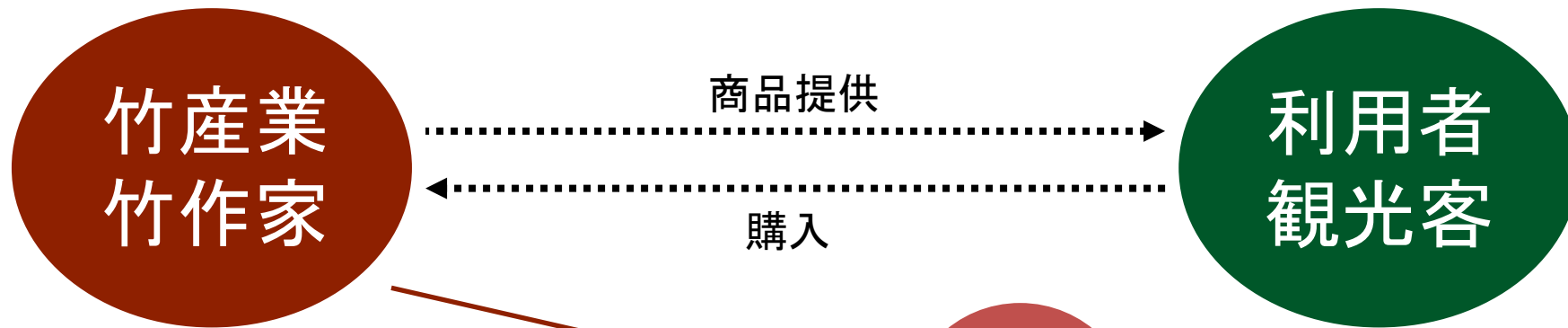


取組事例



伝統的な産業を継承するには？



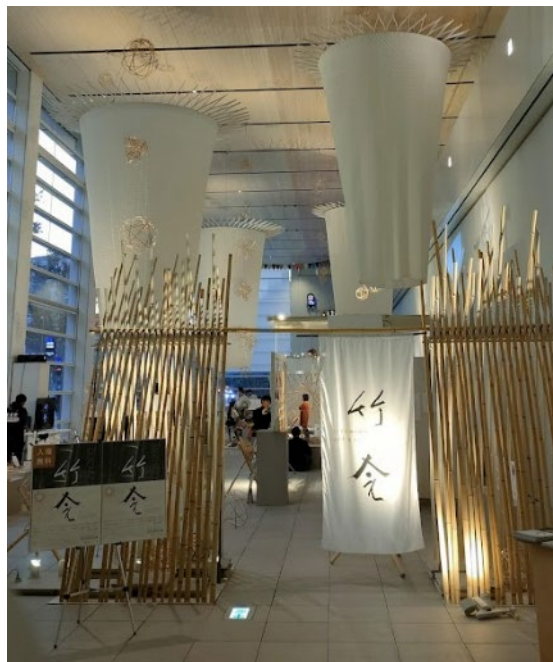


伝統産業であるため、市場規模が小さく先細り
伝統産業に関わる関係者全体が緩やかに衰退

地域の伝統的な産業と 工芸・美術に光を当てる

大分県立美術館
「竹会」

大分県立美術館「竹会」



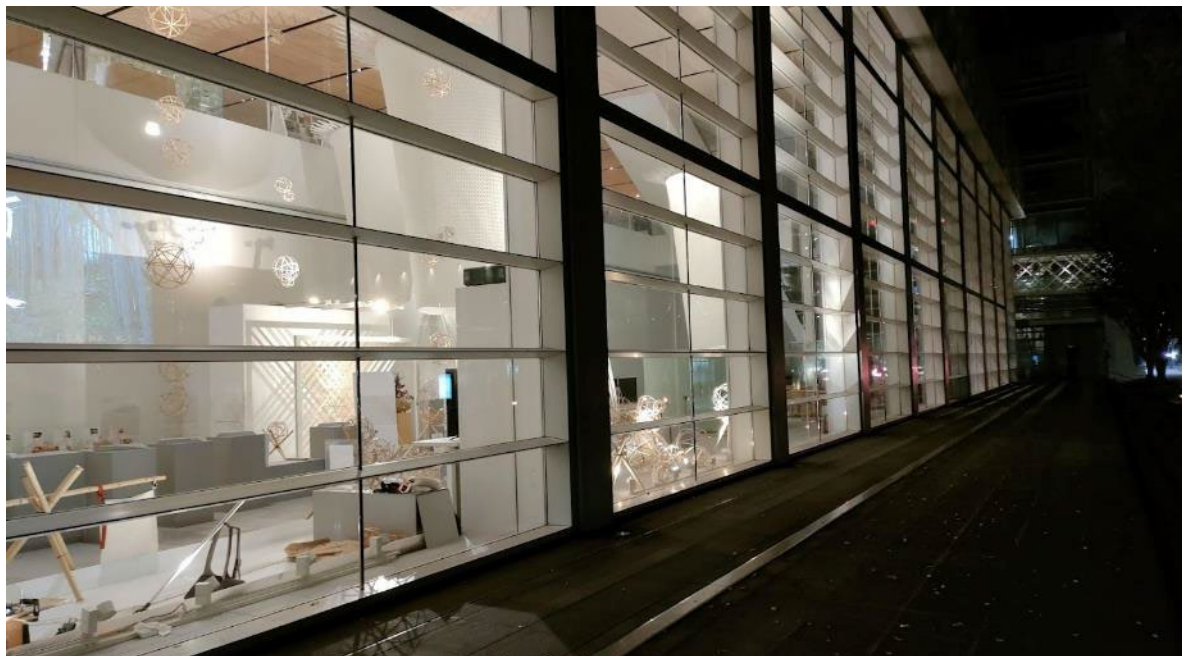
竹会 <たけえ> OITA BAMBOO ART & LIGHTS 2023 | (o-bje.net)

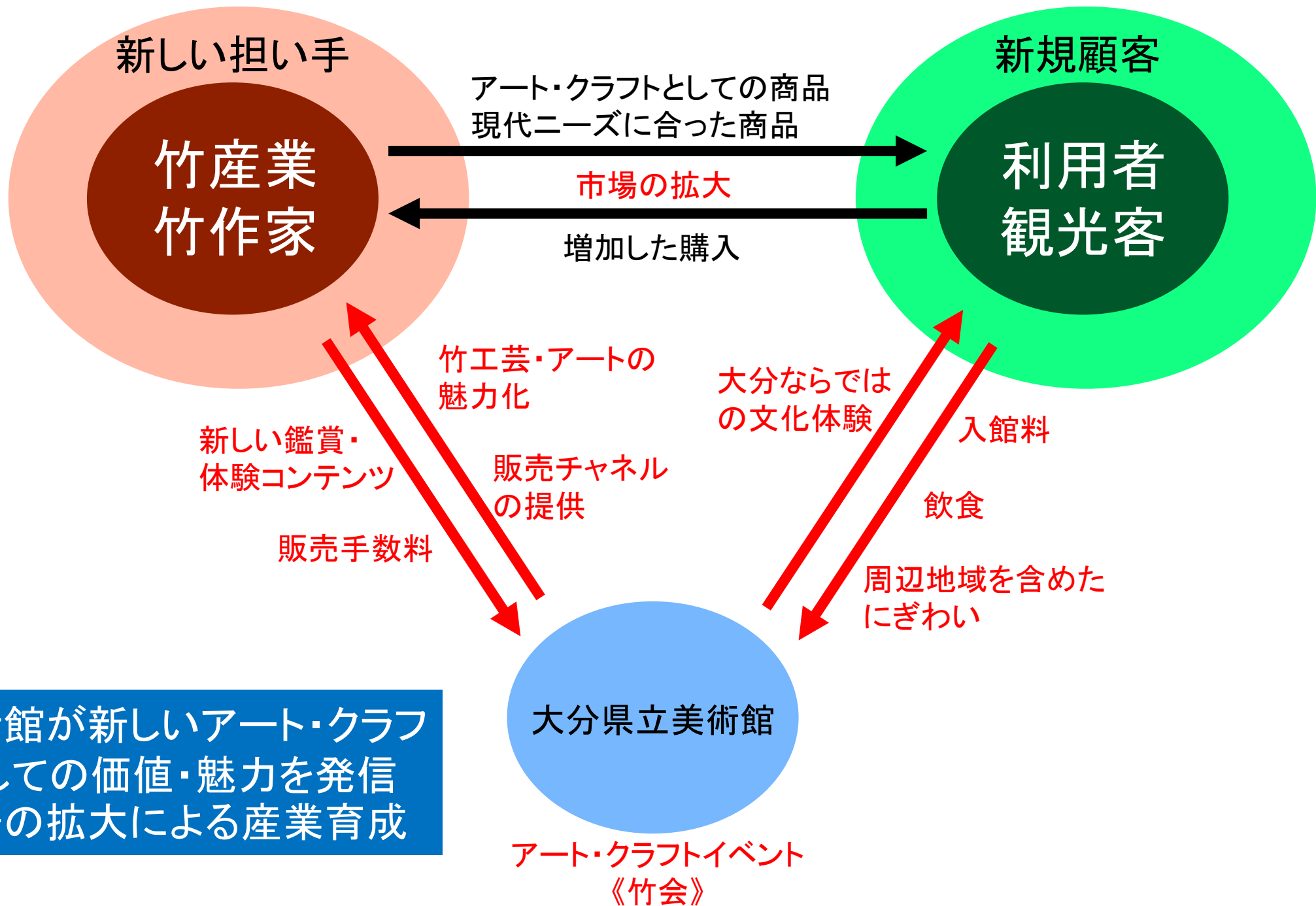
OITA BAMBOO ART & LIGHTS 2024 『竹会』

竹を見る 知る 考える 作る 遊ぶ 聴く 語る 味わう 触れる そして好きになる… 竹の魅力に会える16日間
(9/14~開催中の「特集展示 大分竹工芸名品展－此君礼賛Vol.8－」とは別の展覧会です)









竹会（開催期間を含む20日）のデータ

会場であるアトリウムへの
入場者数：

2023年 22,434人 → 2024年 **32,358人**

インバウンドの入場者数：

2023年 553人 → 2024年 **736人**

工芸作品売上：

2023年 約20万円 → 2024年 **約50万円**

竹工芸特集展示(此君礼賛 おおいた竹ものがたり) 入場者数：

2023年 2,009人 → 2024年 **3,023人**

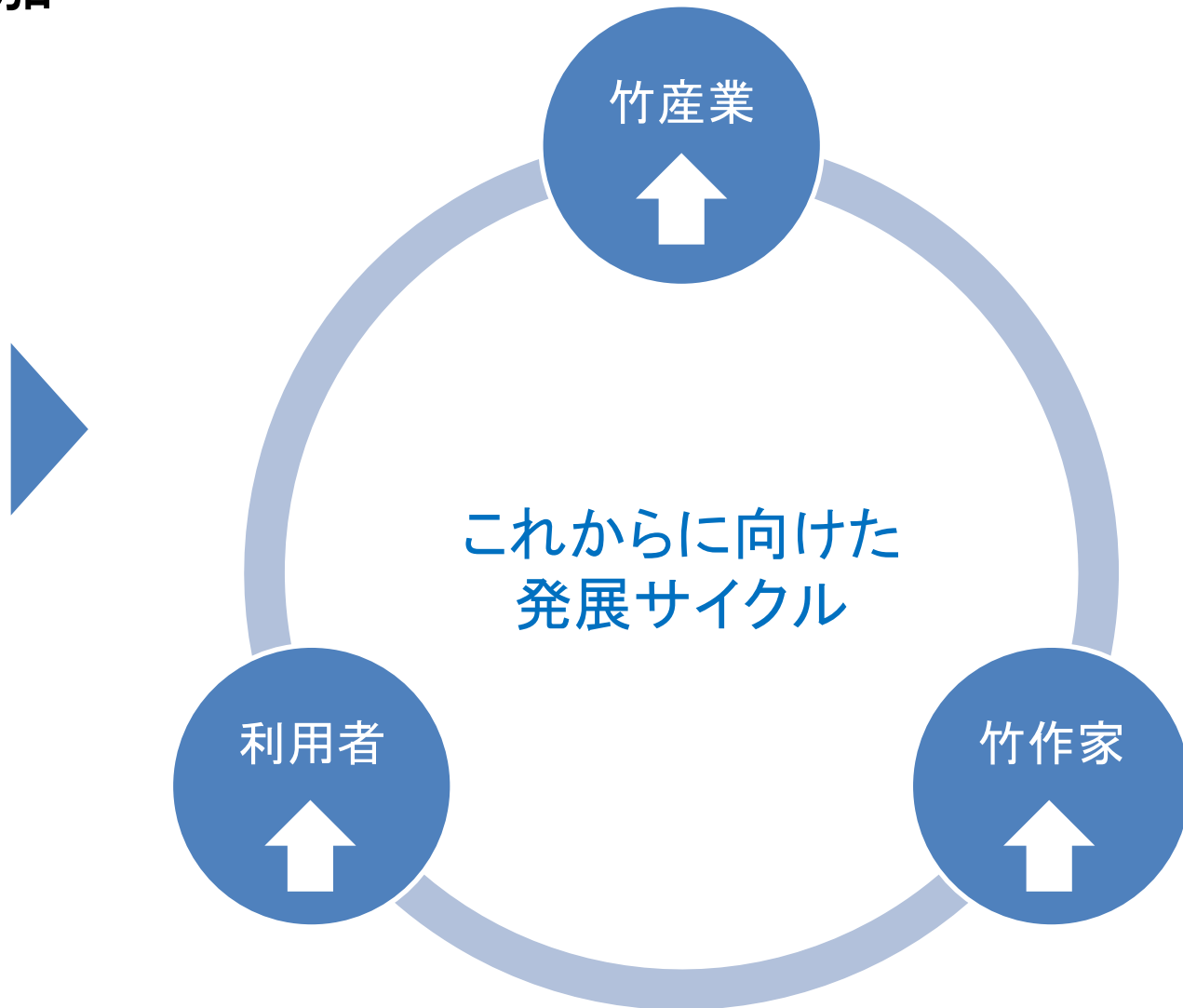
アートやクラフトとしての作品展示・発信
現代的な魅力の付加
新しい市場の創出

大分県立
美術館

《竹会》

所蔵の工芸作品への理解
価値・魅力の共有
地域文化の継承と発展
地域の活性化

使命と目的



地域の活性化と文化の継承

伝統的価値

近現代化以前の経済（生業）

現代社会・市場との乖離
担い手の経時的減少

一部関係者による維持
保存のための公的補助

多様な主体による活用と保存
文化を起点とした交流と好循環

新しい価値

新しい経済（文化芸術・観光）

地域社会・市場との再接続
新しい担い手・支え手の創出

**地域文化は他にないユニークな資源
その活用が地域の未来を創る**

基調講演：「地域との未来をつくる文化観光」

具体的な文化観光での課題解決

文化庁 文化観光推進コーディネーター 丸岡 直樹

文化観光 拠点/地域計画

文化観光の補助事業では5年間の計画であり、立ち上げから体制構築、企画から実装、自走化に向けた取組までをサポート

文化観光のポイント

- 5年間の複数年事業
- 拠点だけではなく地域事業者等との連携体制の構築
- コーチングなどによる外部専門家からのサポート

文化観光に取り組むメリット

- ①自治体や拠点担当だけでは考え切れないことのサポートが受けられる。
- ②縦割りを打破して、チームアップできる機会を得る。
- ③拠点の価値が高まる。文化以外の人からも認められる場所になる。



連携体制を構築し様々な視点を取り入れることができる
(連携事業者及びコーチングでの専門家による支援)

具体的な文化観光での課題解決

事例紹介：備前おさふね刀剣の里（備前長船刀剣博物館）

全国でも珍しい刀剣専門の博物館（展示室＋鍛刀場・工房＋物産館）



事例紹介：備前長船刀剣博物館

文化観光の取り組み

Before

- 「日本刀の聖地」としての発信が弱く、「日本刀」は人気コンテンツであるものの、高価格帯の商品の不足などから客単価が伸び悩んでいる
- 地域消費が少なく、地域と連携した体験商品などが必要
- リピーターを増やすような、来館者との関係づくりを強化する取り組みが必要

After

文化
観光

「日本刀の聖地」を伝える「拠り所」を言語化し、すべての取り組みに反映、その効果を最大化

- 「日本刀の聖地」としての魅力を整理し、言語化しすべての事業へ浸透させたことで、メディア露出や地域の関係・交流人口増、ホームページ、ECサイトなど、地域消費増となった
- 多面的に深度深く「日本刀の聖地」としての発信が強化された



事例紹介：備前長船刀剣博物館

取組の継続のために「拠り所」の作成

「Before」の課題解決には、担当者の人事異動や、追加があったとしても、同じ意識や考え、想いを共有して、同じ方向に進めるようにすることが有効ではないか。

文化
観光

コーチングポイント

取組を実施するにあたって、意識すること、考え方などをわかりやすく言語化した「拠り所」を作成

- ・機能的な引き継ぎ書ではなく、「魂を引き継ぐ」ための拠り所
- ・取組で大切にしてきたこと（意識、考え方、想い等）
- ・「日本刀の聖地」をジブンゴトとして、大切にしていること

事例紹介：備前長船刀剣博物館

取組の継続のために「拠り所」の作成

序文

『「日本刀の聖地」を実現するために』は、全部で11項目あります。

『「日本刀の聖地」を実現するために』を将来に向けて育んでいくために、
地域としては、地域住民それぞれが各項目に取り組んでいるという全体感を持ちながら、
自身の仕事や地域の取り組みにおいて、「今回の取り組みは、どの項目を重視すべきなか」を
常に考えながら行動してください。

現在の『「日本刀の聖地」を実現するために』に書かれた言葉は、最終版ではありません。

「日本刀の聖地」を実現するために、それぞれの立場で関わり合いながら、
言葉の協議・選定を重ねて、自分たちで納得のいく言葉を紡ぎ出していってください。

備前長船の刀剣のように、
みなさんで『「日本刀の聖地」を実現するために』を
何度も叩いて、磨いていくことで、
それが“ジブンゴト”となり、文化になっていくと、私たちは信じています。

事例紹介：備前長船刀剣博物館

取組の継続のために「拠り所」の作成

「日本刀の聖地」を実現するために

1

奇跡を継承している
意識と自負を持つ

2

刀剣文化を自分の
言葉で語る

3

刀剣文化の
本質・本物を伝える

4

“ジブンゴト”として
関われる接点を量産
する

5

刀剣専門の博物館
ならではの鑑賞体験
を追究する

6

刀剣でつながるご縁
を地域全体に広げる

7

次世代に届く新しい
挑戦を重ねる

8

長船のありのままの
魅力を発信する

9

ファンの多様な熱量を
受け入れる

10

お客様にとっての
第二のふるさとになる

11

地域で「一家に一振」
を実現する

事例紹介：備前長船刀剣博物館

取組の継続のために「拠り所」の作成

1

奇跡を継承している
意識と自負を持つ

世界中の人々から唯一「日本刀の聖地」と呼ばれ注目されている地域。

約1000年も前から受け継がれてきた、長船の地・刀剣の文化を繋いでいくため、日々努力している人たちに感謝し、古の存在や技術が、時間と空間を越えて受け継がれてきた奇跡を忘れてはいけない。

4

“ジブンゴト”として
関われる接点を量産
する

「刀剣文化」について、長船の刀剣にまつわるエコシステム（生態系）を振興するという全体感を持ち、地域住民・老若男女、誰もが“ジブンゴト”として関われる接点を量産する。
誰かがどこかで”**ジブンゴト**”として「刀剣文化」に携わるシーンを生み出していく。

事例紹介：備前長船刀剣博物館

「日本刀の聖地」としての魅力を整理し、
多面的に深度深く「日本刀の聖地」としての発信が強化された

商品開発（カレンダー、付箋、Tシャツ）



ECサイト



ロゴマーク



単眼刀（ふるさと納税）



動画制作



地域連携イベント



具体的な文化観光での課題解決

事例紹介：徳川美術館

家康の遺愛品を中心に、尾張徳川家400年の歴史を今に伝える名古屋の美術館



事例紹介：徳川美術館

文化観光の取り組み

Before

- ・ 首都圏や関西圏等のより広範囲な地域での認知度の不足
- ・ 従来からの高年齢来館者層の世代交代をふまえ、若年層へのより積極的な浸透が必要

文化 観光

全職員が同じテーブルにつき、
次代を見据えたリブランディングを検討

After

- ・ 有志の若手や中堅職員の有志で構成するワーキンググループを組成、次代を見据えた活発な議論を実施
- ・ ナイトミュージアムの運営改善、外販の検討、収益性の改善、広報PR施策におけるパーパス、メッセージを整理
- ・ ナイトミュージアムは事前予約で満席に



事例紹介：徳川美術館

徳川美術館の今までの常識を見直し、鑑賞者の視点に立った改革を実施！

スマートフォンの持ち込みNG→持ち込みOK、撮影可能に

VIの刷新（今後ホームページのリニューアルも）

徳川美術館・名古屋市蓬左文庫

スマートフォン、タブレット端末、コンパクトカメラ*での情報検索や写真撮影OK！

*コンパクトカメラとはポケットに入るサイズのカメラです。

禁止事項

他のお客様への迷惑となる行為、作品の保護・安全を損ねる機器の使用・撮影はご遠慮ください。

一眼レフ 動画 フラッシュ

長時間撮影 記念写真 一脚・三脚など 自撮り棒

左記のマークのある作品は撮影・検索ともに禁止です。

※禁止事項に該当する行為をしている方へはスタッフよりお声がけする場合があります。

※混雑時は撮影をお断りする場合があります。

※マナーを守って、お楽しみください。

※詳しくは展示室入口の掲示板をご覧ください。

検索・撮影禁止

ネットワーク名 tokugawa-guest-wifi
パスワード Tokugawa1935

Free Wi-Fi

【SNS投稿OK!】 #徳川美術館 #TokugawaArtMuseum

The Tokugawa Art Museum / Hōsa Library, City of Nagoya

Using smartphones, tablets and compact cameras* for web-browsing and photographing is permitted in the galleries!

*Compact camera: a camera that fits in your pocket.

Rules to be Observed

Please refrain from any activities that may disturb other visitors and using of equipment that may endanger the protection/safety of the artworks is prohibited.

SLR camera Video Flash photography

Long-duration photography Commemorative photos Tripods Selfie sticks

Web-browsing and photography is prohibited for artworks labeled with marks.

※ Staff may ask you to follow the rules if you are engaging in any of the above activities.

※ For details, please see the bulletin board in the museum or the website.

※ Photography may be prohibited during peak times.

SSID: tokugawa-guest-wifi
Password: Tokugawa1935

Free Wi-Fi

【Posting on social media is OK!】 #TokugawaArtMuseum



徳川美術館
THE TOKUGAWA ART MUSEUM



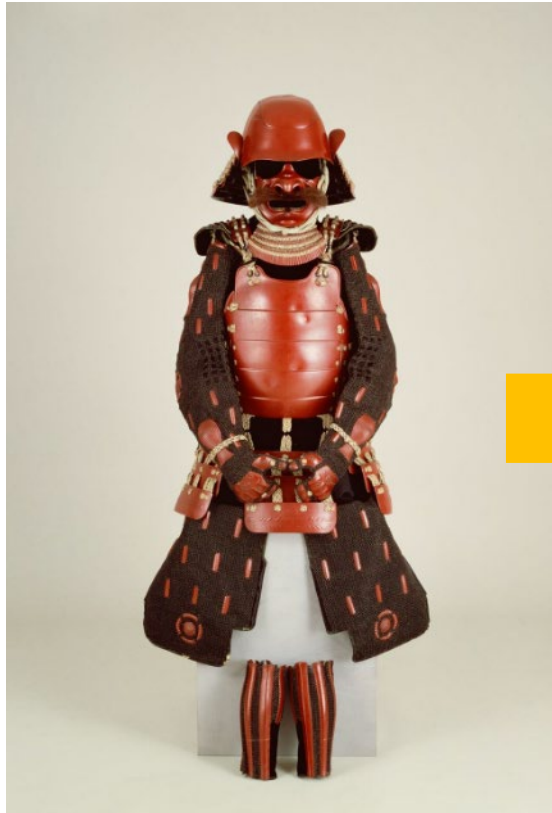
徳川美術館
THE TOKUGAWA ART MUSEUM

事例紹介：徳川美術館

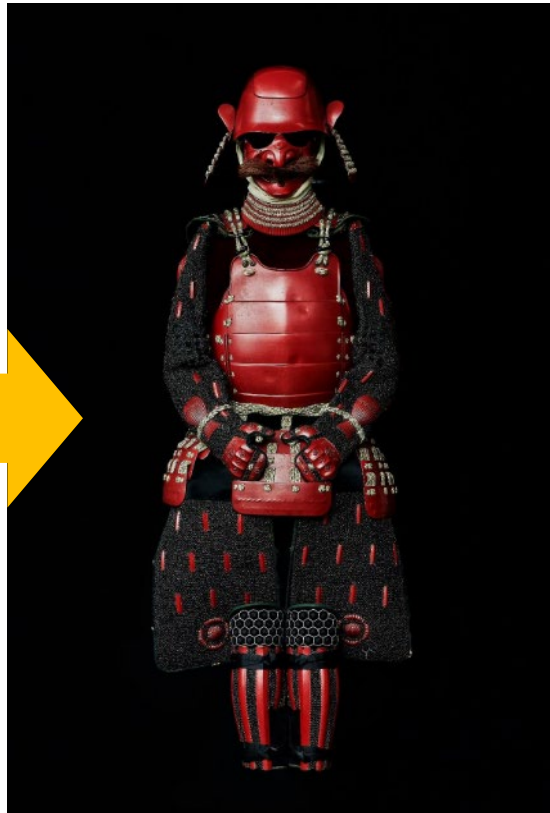
全職員が同じテーブルにつき、次代を見据えたブランディングの方向性として、
「継承された伝統美を、現代的価値とともに未来へ届ける」とした

プロのカメラマンを起用した撮影及び素材撮影のルール化

Before



After



ナイトミュージアム



具体的な文化観光での課題解決

事例紹介：徳島県立阿波十郎兵衛屋敷（徳島県地域計画）

国の重要無形文化財「阿波人形浄瑠璃」を毎日上演し、展示や映像からその歴史を学ぶことができる



事例紹介：徳島県立阿波十郎兵衛屋敷（徳島県地域計画）

文化観光の取り組み

Before

- ・ 阿波おどり以外の集客力の不足、「あわ文化」のアピール不足、博物館が観光の来訪先になっていない
- ・ 来訪者の面的な動きがなく、「あわ文化」を多角的に愉しませる取組が少ない
- ・ 国内外の新規参加者を増加に繋げる必要がある

文化
観光

徳島県ならではの文化を繋ぐ 水上交通のプラットフォームの構築

After

- ・ 「あわ文化」の魅力の棚卸とモデルルートの構築とツアーの造成・実証実験
- ・ 徳島県立博物館、阿波十郎兵衛屋敷、藍の館、阿波踊り会館、DMOなどと連携し、水上交通とスーパーアプリ「しこくるり」を活用した事業体の設置を検討
- ・ 阿波十郎兵衛屋敷を中心に阿波人形浄瑠璃の字幕の多言語化や商品造成、水上交通事業者や他の館と連携を実施し、来訪者のおもてなしを整備



事例紹介：徳島県立阿波十郎兵衛屋敷（徳島県地域計画）

阿波十郎兵衛屋敷を中心に阿波人形浄瑠璃の字幕の多言語化や商品造成、水上交通事業者や他の館と連携を実施し、来訪者のおもてなしを整備

阿波人形浄瑠璃の字幕の多言語化



3Dプリンターを活用した木偶づくり



テレビ徳島の番組で活用



からくり紙人形工作キット



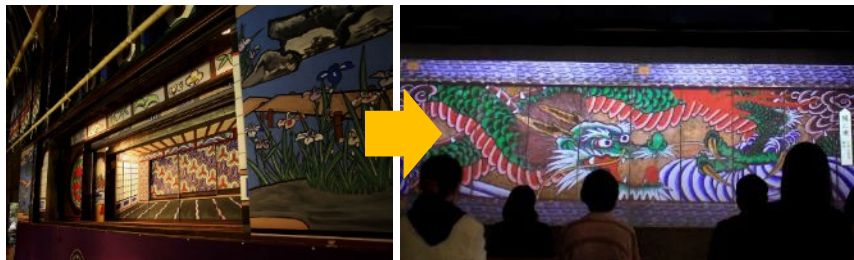
水上交通を活用したツアーの事業化検討



各拠点や体験を周遊ルートの検討



農村舞台の襖からくりをデジタル化（からくりをPR）



拠点とナイトエコノミーを繋ぐ居酒屋直行便



事例紹介：徳島県立阿波十郎兵衛屋敷（徳島県地域計画）

拠点整備の取り組み

阿波人形浄瑠璃の字幕の多言語化



3Dプリンターを活用した木偶づくり



テレビ徳島の番組でも活用



からくり紙人形工作キット



農村舞台の襖からくりをデジタル化（からくりをPR）



事例紹介：徳島県立阿波十郎兵衛屋敷（徳島県地域計画）

地域連携の取り組み

水上交通を活用したツアーの事業化検討



拠点とナイトエコノミーを繋ぐ居酒屋直行便



各拠点や体験を周遊ルート of 検討

